

平成30年度 第2回美篤地域協議会会議録

開催日	平成30年6月15日(金)								
開催時間	開 会	午後7時05分			閉 会	午後8時57分			
開催場所	美篤きらめき館 第1、2会議室								
委員の出欠		委員氏名			委員氏名			委員氏名	
出席18名 欠席2名	1	中山 一成	出	8	吉田 宮雄	出	15	丸田 旭雄	出
	2	中澤 春樹	出	9	矢野 正明	出	16	伊藤よし子	欠
	3	木下 隆人	出	10	小林 光洋	出	17	兼子 俊彦	欠
	4	矢島 莊衛	出	11	中村 敏一	出	18	大羽みのり	出
	5	山崎 勝	欠	12	遠山 豊	出	19	黒河内 浩	欠
	6	根津 二郎	出	13	渋谷 明	欠	20	白鳥 敏明	出
	7	小松 千里	出	14	山岸眞由美	出			
署名委員	遠山 豊			山岸 眞由美					
委員以外 の出席者	なし								
市側の 出席者	なし								
出席した 事務局職員	美篤支所長 伊藤 明生								
協議事項	1 地域の課題について 2 その他								
配布資料	1 名簿 2 地域の課題について (1) 学童クラブについて (2) 子育て支援、魅力ある地域づくりについて								

■概要

1 開会

伊藤美篤支所長の進行により、午後7時5分に開会する。

2 あいさつ（中山会長）

3 会議録署名人の指定について

会長から、12番委員 遠山 豊委員と、14番委員 山岸 眞由美委員を指名

4 協議事項（会長議長）

(1) 地域の課題について

ア 学童クラブについて

事務局から、配布資料に基づき説明

(会長) 前回の話の中から、事務局で資料を取り寄せてもらった。この資料を基に、今後の対応について、どういう調整をしていくかということになると思う。意見をいただきたい。資料に対する質問からでよい。

(事務局) そのとおり。

(委員) 学童クラブは各小学校にあるが、伊那小学校と西箕輪小学校は専属の施設がある。美篤についても、昨年、一般質問で建設の話を教育委員会にした。一ついわれたのは、できれば地域でほっとセンターの利用の調整をしてもらえないか。箱物は非常に苦しい。という問題と学童クラブを教員住宅を使って行いたいといったが、そこが給食室の工事が来月から始まり、来年4月から給食が新しくなる。それに活用することになった。教育委員会としては、基本的にはほっとセンターを使って美篤はやりたい。という意向が非常にある。こういうことを参考にしてもらえれば。特に夏休みもある、平日も多少かかるときがある。公民館に施設もあるので、使えるようにして、今まで減免でお金がかかるようにはできないので、そんな動きをしてもらえば、子育ての問題で、全国的に注目されている。何とか専用施設でないが、それなりに使えるように。美篤地区も子どもたちが増えているので。そういうふうにお願ひできないか。

(委員) 当面はいいが。現状の給食室が撤去になる。そこに隣接する形で学童クラブの施設としてつくることができればいいと思う。すぐに無理でも、美篤地区としては、給食室の跡にぜひ新設でお願いしていく動きをやっていくべきと思う。

(委員) 前の校長先生も、現給食室をそのまま学童クラブに切り替えてくれという意見があった。現建物は耐震の問題と改装費がかかってしまいダメだという意見もある。解体され更地になるので、そういう要望は出していけると思う。ほっとセンターはあくまでも高齢者の施設だということで。言っただけでもないが、要望は残して行っていいと思う。逆にそれができるまでの当面は、

地域で何か調整して、特に夏休みは、朝から夕方までなので、ほとんど使えないという状況になってしまうので。

(委員) 実際にその間使えない子どもたちは、どこにいたか。

(委員) 公民館のプレイルームや小学校の体育館を使ってやっている。冬の寒い時期が大変だということを指導員から聞いている。そんなに多くはなかったと思うが。現実には年何回かは行っているといっていた。

(委員) 雪や雨が降ったりすると、屋外で子どもたちを遊ばせられないので、その時が一番困る。ということを行っている。目先だけでなく、今後、どうなるかという中で、教育委員会に話もしているが、「数年後、美篤地区の児童数がどうなるか。」という話も出てくる。現在、学校の教室が一杯であっても、一教室ぐらい空くのではないか。という話もある。美篤全体の人口を毎月チェックしている。ここんとこず一つと人口が減っていた。今月、初めてプラスになった。伊那市全体でも4名プラス、美篤が10名プラス。

(委員) 移住、定住の効果がじゅわじゅわと出てきているかもしれない。

(委員) 詳細は分析してみないといけないが。

(委員) 教室が空いてくるならば、そこを使えばいいという考えがあるが、基本的に学校は学童クラブと切り離したいという考えがある。あくまでも別の施設でという考え。敷地内は問題ないが、常設で教室にて行うとすると抵抗があると思う。

(委員) 特に保安などの問題で。

(委員) そういう問題があるので、隣接してもかまわないがあくまでも別の建物で。1、2年とはいわないが、給食室の跡地に施設を要望していくことも必要かもしれない。

(会長) この件ではほかにどうか。

(委員) 区長会長と支所長で利用団体と話し合いをしてもらう。なるべくお金のかからないようにして。プレイルームでダンベルを持ってきて行うことは可能か。かなりハードなことをしているのか。

(事務局) 高齢者なのでそんなにハードなことはしていないと思う。

(会長) 経過や利用団体のところで、「この施設はもともと高齢者の施設として造られたと聞いている。」とある。まったくそのとおりである。もともとはほっとセンターも前の老人憩いの家も利用が少なかった中で、脳いきいき教室をここでやって、元気会、ほっと美篤運動クラブとも脳いきいき教室のOBを中心としてつくられた高齢者の健康志向クラブである。脳いきいき教室、そのものは今年から公民館に移ってきたが、市で行う事業なので、それは正に減免、公民館は無料にできる。脳いきいき教室の卒業生であるが、自主的なもので、やりなれたところで、もともと高齢者の施設であったところで使いたい。というのは、よく理解できる。平成25年からだと思うが、学童クラブが教室を使って

いたものが、クラス編成上でほっとセンターを使うようになった。しかし、「他の団体と重なる場合は、それなりにやりくりします。他の団体を優先してください。」ということで、夏休みなどは、空いているときは公民館の講堂などを利用して、学校にも協力いただき体育館などを使い、学童クラブがやってきている。根本的には、学童クラブの方でも専門の施設がほしい。教室が空けばということもあるが、平成25、26年の時と社会的状況は異なるが、専門の施設を造ってもらうということを基本にして、当面、どの様に調整していくかが、基本線ではないかと思うが、いかがか。

また、要請ばかりではいけないと思うが。地域の課題を市の方へ要請していくことも認められている地域協議会の活動内容なので、学校や学童クラブとも相談しながら、美篤地区としてはこう考えているということで要請していくことを基本として、当面のやりくりをやっていきたい。先般の会議のときにも、特別養護老人ホームとかで受け入れできるという言葉もいただいているので、こういうところも利用しながら、当面はやりくりして、お年寄りも若い方も活動ができるような調整をしていけたらいいと思う。

(委員) 夏休み以外のときの利用できなかった対応は、学童クラブの方が公民館とかを使う対応をしているのか。

(会長) 全体の場合はそういう対応をとっている。ただ、学年ごとで時間が違う場合は、どうにしているか分からない。

(委員) 会計検査があるか分からないが、建前上は、老人の施設であるから、老人の方を追い出してしまうことはまずいのではないか。

(委員) そこらは調べていないので分からないが、利用されていればいいと思うが。建って何年ぐらいたったのか。

(事務局、会長) 保育園と一緒に建設された。

(委員) 十数年たっているのか。

(委員) 支所・公民館は平成20年度に建設されている。

(会長) 支所・公民館が移らないということで、保育園ができなかった。10年はたっていない。

(委員) 補助金をもらって建てているので、まだ規制はあるのではないか。

(委員) 残しておいた方がよい。

(委員) 会長の話のように、地区の子どもたちのことだから当面はやりくりして、美篤としては専用施設を造ってほしいと声を上げておいた方が良いかもしれない。

(会長) 要請のかたち、要請の文は、ほかの方々にも相談しながら、原案を提示ができればと思いますので、おまかせいただきたい。

(委員) 2団体と一回協議してみしてほしい。

(会長) 本来の団体が使っているという形はとっておきたい。まったくオミット(除

外)でなく。その団体が使っていて、そうでない調整のつかないときは外へ行く。ほっとセンターを使っている専用の団体を作っておくべきではないか。

(事務局) 昨年の夏休みの状況も調べてみますか。

(委員) そうですね。朝から晩まで使うとなると。

(会長) 学童クラブと二つの団体と話をしながら、先ほどの方向で模索し、報告したい。よろしくお願ひしたい。

イ 子育て支援、魅力ある地域づくりについて

事務局から、配布資料に基づき説明

(会長) 2つの事例を、今日は皆さんの参考に、感想や質問をいただいて、魅力ある地域づくりについてのイメージを広げていただけたらと思う。本日、結論ということではなく、出していただきたい。よろしくお願ひしたい。

(事務局) 前回の協議会で、西部地区とかの話も出されたが、担当課でもまだ資料がないということで載せることができなかった。

(委員) まだそこまでいってなく、新山を参考に動き始めたところではないか。

(委員) 新山は盛ん、活発になってきている。発表者は4月から市議会議員になった。お聞きすると、移住定住の希望者がけっこう来るが、もう空き家がない。市役所に相談すると、小原の住宅などを紹介される。来る人は新山に住みたくて来ているので、弱っていると言っていた。空き家は何件かあるが、季節で戻ってくる人とか、まだ仏壇があり簡単に貸せられないとかがあり、手持ちが全然なくて困っている。考えられない困り方をしている。

(委員) 美篤の中でも人口が減っているところがある。考えていかなければならない。

(委員) 場広山登山とか、美篤は隣接するところへ行っている。西箕輪でも羽広にパーベキュー施設をつくった。そういうような場所が美篤であれば、笠原あたりにできればと思う。

(会長) 三峰川か。

(委員) 前回、笠原と芦沢で、新入学がいなくなってくる。という話があった。

(事務局) 特に笠原は、数年後に0になってしまうという話だった。

(委員) 新山と同じことになってきてしまう。美篤全体で魅力をつくるようにやっていかないとえらいことになってしまう気がする。区長会ではそういう話はいないか。

(会長) 学校の児童が減ってしまうという話は、折々出ている。具体策はない。新山は240戸、美篤でいうと末広、下川手ぐらいの規模に小学校も保育園もある。非常にまとまりやすい。単純に置き換えることはできないが、区として、笠原とか、芦沢とかが、参考にできる部分はあると思う。先立つ人も事務局も大変だと思うが、美篤として考えるならば西春近も参考になると思う。

(委員) 新山地区の場合、このままおいておいたら、保育園も閉園、小学校もどこかへ行くというベースの新山としての危機感があり、こういう動きにつながって

きていると思う。芦沢、笠原の話があったが、65歳以上の高齢化率は、美篤の中では芦沢が一番高い。先程、子どもの話があったが、芦沢区は昨年10人だった。10人の内、4人程度が六年生で卒業、数年後になると登校班も組みなくなってしまふ。美篤の中でも東部地域の芦沢、笠原で組んで支部行事をやらなとできないという状況になってくる。他の地区は分からないが、南割でも家はあるが住んでいないというような家が出てきている。空き家に準じるような世帯がどんどん出てきている。これから10年先をみたときに自分のところはどうか。たぶんそういう世帯が増えてくると思う。南割は25名程度の子どもがいるが、10年たったらその子どもたちはどうなるのか。ひよっとすると芦沢、笠原と同じ状態になってくる。一つの例として、4月29日がお祭りだが、子供みこしの担ぎ手が以前はいっぱいいいて、競争で奪い合うような状況だった。今は担げるような状況でなくて、リアカーに乗せている状況。今はいいが、新山のような例があれば、参考にして、美篤地域全体として、人の住んでいない家が何軒あり、移住定住を市長が積極的に取り組むと言っているの、その内、移住定住のベースあるか。地域として10年後に向け、何か手を打つ。長期的なスパンで考えていかないと、さ一大変ですとなっても間に合わない。

新山の事例を参考にして、地域協議会の中でも長いスパンで取り組むことも。

(会 長) 市で、空き家の状況調査はあったが。

(委 員) 今度行うというところではないか。条例をつくって。

(会 長) 以前やったのでは。区長さん方は出しませんでしたか。

(委 員) 去年、西部地区だけの話。

(委 員) これから条例ができて、空き家の状態を調べる。新山は移住定住で取り組んでいるが、美篤もそういうことを本当に考えていかないと、空き家ばかり増えて人口はどんどん減っていく。市としても人口を増やすのではなく、これ以上減らさないように維持していこうという施策に変わってきていると思う。移住定住を増やして、何とかプラマイ0ぐらいに抑えていきたいという考えがある。新山だけでなく、美篤地区も魅力づくりして、空き家の紹介もやるような。長期スパンでやっていかないと。

(委 員) 美篤、12地区、全部が良くならないと思う。笠原の話もあるが、下川手も他人ごとではない。戸数260~270戸あるが、小学生が28名。外の地区に比べて戸数に対する児童の割合が少ない。決して下川手がいいという状況ではない。中身が全然違う。美篤全体がよくなるのも大事。各地区それぞれ全部がよくなってもらわないと思う。

(会 長) 空き家の解消も含めて、調査を独自にやってもいいし、市がやるときは、区長が報告するかたちになると思うので、そういうデータを使って、その後どうするのかとするのも、一つの方法かと思う。空き家が増えているのは美篤地区全体でと思う。とりわけ芦沢ということだけでなく。自分の地区もこの間の事故で、

隣が空き家となってしまった。空き家も含めれば100戸になるが、住んでいないのが10戸もある。

(会 長) ほかにどうか。率直なところでいいので。

(委 員) 何かやっていかなければということだけはあるが、また機会をみて。

(委 員) 社協の立場からだと、子ども問題まで地域懇談会をほとんどでやっていると思った。社協の立場でフリーターキングにてやっているのは美篤全体で半分ぐらいしか行われていない。

どうしても老人問題が中心になっていたが、子どもの問題が出てきている。地域が行政方向だけ動いていて、人と人のコミュニティの問題を話し合う場になっていない地区が意外とあると感じている。

笠原は、社協の立場では模範的。ボランティアもしっかり動いているし、地域社協も一番動いている。本人たちにしてみれば、みんなが総じて年を取っていく、先に対する不安がうんとある。ボランティアも同じ年齢の人や年上の人の方が年の若くて具合の悪い人をみている。いろんな側面の課題が各地区にある。社協主催の福祉懇談会というだけでなく、区の総会とか行政での部分での会議は、とかく終わってしまうので、本音部分はなかなか出てこないかなと思う。

(会 長) 前年の区長さん方、各区での福祉懇談会はどんな状況か。

(委 員) 福祉懇談会でなく、全体的なことであるが、いわゆる危機意識がもう少し出てくると、大変なことが既に現れているが、現実には現われてくると、危機が力になって動いていくかなと思う。

例えば、笠原は少子高齢化の中でボランティアとかがうまく動いていると思う。新山の事例も、学校がなくなるというようなことが大きな危機感となって、それが力になって、今活動になってきて、実績も上がってきている。危機意識というものもうまく使いながら具体策をとっていくことになると思う。

少子化の話も出ていたが、美篤の場合は区によって状況が全然違う。末広とか上川手のように、多すぎて困るところとか。地域の特徴のところを焦点を当てて、危機感をあおって、やっけないとうまくいかないと思う。危機意識はあるが具体的な行動にはつながっていかないので、じたんだ踏んでいる。各区の特性、特色を踏まえた中での手を打っていかなければならないと思う。なかなか具体策はとれない。少子化の問題ばかり、お祭りの神輿の担ぎ手がいなくなってしまったという近々の課題もある。今年も担げなくなるというところから危機意識が出てくる。甘いかなと思うが、そろそろ甘いこともいっておられない。

地域の特色としたら、東部3区で統合しなければならないもあるが、これも難しい。お宮やお寺はそれぞれで持っている。本当の危機意識が、危機感が待ったなしになったときに具体的な行動が出てくると思う。答えにならずいじいじするが、新山の事例をみれば、地理的には新山より美篤の方がいいかなと思

う。今、新山はかなり脚光を浴びている。移住も中途半端なところよりももっと山の方が多い。

(委員) 不便なところを選んでくる。

(委員) 移住の研究もしていかなければならない。雑駁で申し訳ないが。

(委員) 昨年、場広山の手前を奥に入ったところに移住された方のプチマルシェに伺い、話を聞いた。その方が言うには、こんなところ不便でない。バスは来ないし、何にもないところではと言うと。車にて10分でいったらインターに乗れる。少し行けばスーパーもある。何も不便でないと言われた。考え方が違うんだと感じた。来られる方はそういうところに魅力を感じている。逆に美篤なら積極的に来たいという人はいないかもしれない。失礼ない方がいいかもしれないが笠原当たりの方が喜ばれるかもしれない。

地域協議会などの中に「10年後を考える・・・」とかを検討していくのも一つの方法かと思う。そういう中でいろいろな提案が出て、やっていければ。

(会長) 時間の関係もあるが、思いの丈をいうのもいいので、出してほしい。もちろん、結論が出るわけでないし、まとまらなくていいので。

(委員) 芦沢の桜が立派になってきたが、管理は芦沢か。

(委員) 美篤公園ということで、市の委託を受けて芦沢区が管理している。市から援助資金10万円をもらって管理している。全戸で2回草刈りをしている。桜守に来てもらい、桜の整備をしている。立派になってきた。知る人ぞ知るところになっている。

(会長) 土地はどこ土地か。

(委員) 共有地。神社も入っている。機会があったら行ってほしい。

昔は十分距離をとったが、木が大きくなると間伐もしなければならぬ状況にもなっている。

(委員) 笠原の沢は蛍が出ると聞いたが。

(会長) 笠原は出ますね。

(委員) 笠原もいろいろやっている。観光資源になりそうなものを整備したり、掘り越していけたら。

(委員) 美篤にあるものも、その区だけでなく、美篤全体で楽しめるようなものづくりができればと思う。

(委員) 美篤分団は、96人。美篤に住んでいなくて美篤分団の活動をしている人が20人近くいる。彼らの話を聞くと、美篤が好き、いずれはまた帰ってくると思っている。美篤の各地区が元気にならないといけないのではないかと思う。各地区でお祭りをするとき区に加盟していない人にも招待状を出して、区に少しでも加盟してもらえるような、まず、いる人から仲間に取り組んでいくことも必要ではと思う。まず、地区が力をつけていかないと、地域おこし協力隊などをお願いするとしても、この地区にはこういう魅力があるという情報提供

をしない限り、協力隊が開発してくれるわけでもないので、まず、自分たちで、今ある、今いる人たちを地区に取り組んでいく、一緒にやっていく仲間にする。ということから始めないと、区への加入率もどんどん下がってきている現状の中で、12地区の中で各々が力をつけていくことが、今できる手っ取り早い方法と思う。

(委員) 危機管理という中で、12地区に若干温度差がある。美篤小学校377人いるが、その内、100人以上が上川手。子どもの話をすると、上川手の人はどうでもいいということではないが、増えてまとまらない苦しみはあるが、ほかの少ない地区の苦しみは理解ができないところがあるかもしれない。

東部の地区は昔から子どもが少ないので、それなりの危機管理はしていると思う。青島も少ないが、ある程度一定できている。末広は増えている。下県などもある程度安定している。下川手は減る一方。どの地区も美篤のために考え、温度差をまとめる気持ちでやってほしいと思う。

(会長) 私も個人的な話を。長い期間になるかもしれないが、検討委員会などで地区として考えることも必要であるし、各区で考える場、話し合える場を、先ほどの社協の福祉懇談会も一つの場と思う。社協にはそれぞれ区長が入っているし、社協と区との共催という形式でもよい。地域の話をするのが福祉であるが、名称を変えてもいいと思うが、せっかくの場が提起されていても、半分しか行われていない。やっている半分の懇談会の中身もどうかというと、もう少し考えていかなければならない。それぞれの区で考えていく必要もあるし、場を活用していくことも大事だと思う。

昭和の末か平成の始めに福祉懇談会が始まって、当初はみんなやったが、福祉懇談会で何をしたらいいかということでやらなくなったり、やっても意義がないということで、平成3、4年頃から地域社協をつくろう、地域福祉ボランティアを育成しようという目標でやった。そういうもとに地域社協やボランティアができた。各区の自主性により各区の福祉活動が前進したが、早いところは平成4年ぐらいで10年程の差がある。こういう経過があるので、場をそれぞれの区でつくって行く必要があると思う。

(会長) この課題については、具体的にということではないので、次回にもう少し進んだ提案をそれぞれしてもらえばありがたい。

事務局でも本日の意見もまとめたうえで、調査できるものがあれば、紹介できるものを含めて提供してもらえるようにしてほしい。

(会長) ほかにも議題的なものがあるので、次に進める。

ウ その他

(会長) 美篤手良駐在所がどうなって、どう進んでいるか、一回要望書を出してあるが、調べてみるということであったが、分かったらお願いしたい。

(委員) 市の危機管理課を通じて警察にあたってもらった。端的に言って特に動いていないのが正直なところ。駐在所からも話があったと思うが、バイパスができて、交通、事故の形態が変わってくるのか見極めてから考えたいという動きのようである。今、即、どうのという動きはとりませんという感じを言っていた。

特に要望書もらったから、本庁にあげて動いているということだけでなく、それはあまりやっていない感じでした。市危機管理課と話した中では、一回出すだけでなく、毎年毎年出していった方がいいのではと言われた。表現を変えるなどして出していった方がいいのかと思う。

県議には連絡取れなかったが、多分あまり動いていないかなという返事しか来ないかなと思ったので、警察署の方へ危機管理を通じて確認してもらった。我々としては、要望を常に何回か出していくことかなと感じている。

(会長) ありがとうございます。

(委員) 消防の関係で、駐在所と話す機会があった。地域協議会で話が出たことを話したら、駐在所からは市長と一緒に警察署長に行くということがいいのではないかなと言われた。前回の資料をみると伊那市に対して、こうしてくださいとお願いしてあるが、市に対しては、市長は我々と一緒に行動してくださいというお願いで、市長も一緒に巻き込むことがいいのでは。という話をしていたので情報として。

(事務局) 市として美篤地区と同じような気持ちや考えを持っていれば、行動してもらえると。共通の気持ちや思いになるようなことをしていかなないと。一緒にとってもなかなか難しいと思う。

(委員) 危機管理と話した時に西箕輪の話もあった。西箕輪は今あるのか。

(事務局) 現在、西箕輪には駐在所はあるが、地区の人でも分からないような奥まったところにある。地域の人が分かるような利用しやすいようなところに考えてほしいという中で、厚生連の新しい診療所ができたので、前の診療所を何とか考えてほしい。市としては、そこを農協から借り上げているが、平成31年だかまでは取り壊さないで待っている、ぜひ検討してほしいということで要望を上げてある。

(委員) 西箕輪でも駐在所をと言っている、そういう話だったのか。診療所の跡地を言っていたので。

(会長) 先に委員が言っていたように、地元と市が一緒になっていくことを本当にやりたい。R153の関係で、県の事業なので、青島で建設事務所へ要請書を出すときに市長名と両方で同じ文書で出した。市が地元の状況や考えを理解して、地元と一緒に県へ要望するという形をとらないと、担当課は御用聞きということで市はそういう形をとってくれない。難しいが市は我々に近いんだというスタンスでの働きかけは、市と県は分けてのものが必要かと思う。

(事務局) さっき紹介した西箕輪は、市が待っている、市が地元の考えを理解して

いるという見方もできる。

(委員) 交番化ということでは、西春近も含めてやりたいということ。

(委員) 西箕輪だけが駐在で残り、後は全部交番化か。

(委員) よくわからないが、そのような構想が流れたようなことも。そうすると真ん中辺の川の向こう側という話になるのか。それは困る。

(委員) 現在のような駐在所が今後に残るのか。若い人だと勤務状態からしても、365日気が休まらない勤務でなく、交番で休日ができる形になっていくとすると、駐在所があっても適当な人材がない話になる。

(会長) やり方等も検討し、要望書は毎年出した方がいいということはそのようなので、ただ有効な要望書がいいと思う。検討させていただき、次回にお願いしたい。

(会長) その他課題があったらお願いしたい。

(委員) 地域の課題として提案、取り上げてほしい。先日、ナイスロードの青島地籍で交通死亡事故があった。青島区、安協が動いていると思うが、市議会の中で一般質問でも取り上げられたと聞いている。地域全体の課題として地域協議会で取り組むべきではないかと思うので、協議いただけたらありがたい。

(会長) 地域全体なのか、ナイスロードか。

(委員) ナイスロード。

(会長) ナイスロードの交通安全対策についての提案ですのでご意見を。

(委員) 昨日午前中の一般質問の中に、青島地区から強い要望があったので、一般質問に入れた。平成26年のときにもごみ処理施設の稼働により車が増えて大変になるとして質問した。その時も農作業の人が、非常に危機をもっている。現場を見たが、グレーチングが4、5枚あるだけで、畔もそんなに広くないので、駐車にかなり厳しい。青島の途中まで歩道があり、そこまでが都市計画道路。市役所から向こうへ延びていく環状南線の状態で、都市計画のところまでは歩道があり、そこからは歩道がない。非常に交通量も多くなってきているので、グレーチングをもっと増やすことと、少しずつでもいいから歩道を延ばせられないか。追い越し禁止区間にしたらどうか。以上、3点を提案した。

歩道は簡単にできない。グレーチングの駐車スペースは、できれば圃場に入る馬入れを市でも手助けするので圃場の方で対応してほしい。追い越し禁止区間については警察との連携があるので簡単にはできない。という回答であった。地区からも要望を出した方が良いとアンダーで話がきている。そういう論議もして、事故の起きた身近なところで、警察、公安委員会に出していった方が、何らかの方法が出てくると思う。市として、圃場の馬入れのところを広くする現物支給をするようなことにもっていた方がいいのではと感じた。

(委員) 田んぼの反対側に車を止めるのは大変なんだね。

(会長) 中にはナイスロードで、田んぼで、道路のある区間がある。それは四分の一

以下。南側はそうではないし、北側の半分近くは道路があるが、6割はない。配水路のグレーチングはかなりお金のかかる話。グレーチングを増やす場合、車をどこに置くかという問題がある。グレーチングに対する補助は今あるので、それを使ってやるのは結構ですよという回答であったと思う。それをやるのが有効か分からないがという話であった。

歩道があればグレーチングを増やすことによって、駐車違反も出てくるかもしれないが、そこへ車を置けることは確かである。歩道がないまま行っても意味がない。今回起きた事故と状況は全く変わらない。

実際の農作業を安全にするには歩道とか側道が現在の幅でも必要。

(委員) 水路の上へのグレーチングは、安全面ではいいが、水路の下を補強していない。その上に車を止めると、水路が下がったりしてしまうので、配慮して考えてほしい。

(委員) 車が載ることを想定していない。

(委員) 警察のカウントだと24時間以内でないので、死亡事故にしていらないと思うが。

(委員) 3日経っているので死亡事故にカウントしていない。

(委員) 死亡事故が起きると、通常、警察、地元、安協が安全対策の検討会を行う。今回はそのような予定があるのか。

(委員) 今回は重大事故発生の通知が来ただけ。何をしてくれということがなかった。道路とかのハード面で起きた事故ではない。高齢者のわき見運転で事故が起きたということで、ソフト面での影響が大きいので、高齢者の交通安全講習をもっと少し徹底した方がよいという指示しか受けていない。

警察もハード面で起きた事故ではないと考えているようだ。

(委員) 前方不注意。

(委員) その一言で片づけられない。

(委員) 農作業するときは、側道に止めて作業していただくよう指示を受けましたが。さっと来て止めるとしたら、路肩に止めるのが多いと思う。それを青島など地域的に考えなければならない。

区長会長から事故があり、看板等の要望があり、安協では協力していく。それと一緒に要望書も出したいと思う。

(委員) ソフト面での原因だが、伊那警察署の交通課あたりを巻き込み、ハード面での問題の動きができないか。

24時間を経過したため、交通死亡事故にカウントされないが、交通事故防止対策の検討を、警察を中心に進めてほしいと思う。

(委員) この前見たら、時間が経っているということでカウントしていないので、あれっと思った。

(会長) ナイスロードは上原から青島まで。農道、農林のお金でつくられた。一番い

いのは側道であるが、南側に側道が必要なのは上川手から下。上原、中県、下県は、片側が三峰川に接しているので片側だけになる。先程の問題と同様だが、全体としてのものと、道路の状況によりお願いする区の内容が異なってくる。

青島としては、看板を市と協議したら管理責任者の中でやれるものはやると返事をもらったので、現在、管理課と詰めている。それがだめの場合は、妥協を通じてお願いしたいと思う。

歩道というと通学路が優先され、そこには駐車できない。一番は市の方での運用はともかく、側道で要請はしていきたい。当面は青島区間だけは。徐々に上へ延ばしていけばと言っていたが、地区としては考えていきたい。青島としては、側道設置が一番として考えている。あと、看板設置とか追い越し禁止車線の指定なども含めて要請を出していきたい。

焼却場で増え、153バイパスで格段に増えることが予測されているので、ナイスロードが開通したときは全然想定していなかったと思う。地域協議会としても要請していただければありがたい。

(会 長) 検討させていただき、次回に。

(委 員) いきなり側道とっていいのか。農耕車優先の道路なので。農作業者の安全確保施策を取りなさいという表現にしないと。側道といっても、現実味がない。

(会 長) 農道であるが、市道で指定をしているので、もともとは農道でつくられたが現実には農作業が安心してできないので、農作業が安心してできるために側道なり、歩道をつくってほしいというスタンスである。

もう一つ特殊なのが、三峰川橋から境の境まで、農道であるが、下川手から上原までは用地買収が含まれている。青島は用地買収されていない。用地買収せずに道路をつくり、ナイスロードとつなげたという形になっている。青島で圃場整備をして、その時に作った農道そのものである。それにプラスしたのは歩道部分。歩道部分を除いては用地買収が全然ないので、正に農道として使えなければならないものが使えなくなっているという特徴がある。

(会 長) 提供した、つなげたということである。伊那の方からと下川手以降をつくって、それに青島の農道をつなげたということ。それで、ナイスロード、右岸道路をつくった。

(委 員) 地権者は。

(会 長) 圃場整備で道にしてあるので、市所有地になっている。

(委 員) 市の農道になっていたのか。

(会 長) そのとおり。

(委 員) 歩道だけは、供出して、市が買ったという形になっているのか。

(会 長) 市で買収しています。

(会 長) 次回への宿題が増えたが、協議は終了させていただく。

8 その他

(事務局) 次回の協議会の日程は調整させていただく。

(会長) 暴追、成人式、防災訓練などある。検討させてもらう。

9 閉 会

会長から閉会のあいさつ